

教育虐待が子どもに与える影響と親の心理

近年、成績が悪い子供に対して暴力を振るう、怒鳴りつける、長時間の勉強を強いるといった行動は「教育虐待」と呼ばれるようになった。本論文では、先行研究から教育虐待が子供に与える影響と親の心理について論じ、教育虐待をなくすためにはどのような社会にしていくべきかについて考察することを目的とした。

まず、第1章では児童虐待において心理的虐待が多くを占めているという点と、家庭内のみで行われるため外部からだと実態が分かりづらく、判断が難しいという点から心理的教育虐待について述べた。

つぎに、教育虐待が子供に与える影響について第2章で述べた。暴言などによる心理的虐待は脳の発達を阻害し、精神疾患に繋がるが、全ての被害者が精神疾患になるわけではなく、機能不全家族で育った場合はアダルト・チルドレンとして生きづらさを抱えたまま生きていくことになる場合もあることを主張した。

そのつぎに第3章では親の心理について述べた。一人っ子が増え、1人あたりの養育費が増えたこと、受験戦争が激化していることが教育虐待が起こってしまう原因であると考えた。さらに、教育虐待を行う親には自身の達成できなかった成果を子どもに押し付けることでリベンジを果たそうとする心理があることがわかった。

最後に第4章では、教育虐待をなくすためにはどのような社会にしていくべきか考察した。当人らが教育虐待について知識を得ることや社会問題として捉え、教育システムから変えていく必要があると結論づけた。